

オリンピック大会をめぐる李想白の動向 ーバスケットボールの正式種目決定についてー

Sang-Beck Lee's Trends for the Olympic Games ー Regarding the Determination of Basketball as an Official Event ー

及 川 佑 介

Yusuke OIKAWA

1. は じ め に

本稿では、日本バスケットボール界での李想白の功績に関する一齣として、バスケットボールがオリンピック大会の正式種目に決定したことと彼の関係を記す。

李想白は、1940年に大日本バスケットボール協会が行った創立10周年記念式典で功労者として表彰され、1966年には日本政府により勳3等旭日章が授与された。我が国におけるバスケットボール界・スポーツ界での彼の功績については、これまで主として次に示した五つの文献で語られてきた。

- 1) 牧山圭秀の「バスケットボールの技術史」(『スポーツの技術史』所収、1972)
- 2) 大日本バスケットボール協会50年史『バスケットボールの歩み』(1981)
- 3) 早稲田大学バスケットボール部60年史『RDR60』(1983)
- 4) ハングルで書かれた李想白の伝記『想白 李相伯評伝』(1996)
- 5) 孫煥(現在韓国の中央大学教授)の博士

学位論文「戦前の在日朝鮮人留学生のスポーツ活動に関する歴史的研究」(1998)

これらの文献は、李想白の思い出話し・記憶に基づくものが多く、資料的裏付けを十分なされていないとはいいい難い。しかし、牧山圭秀の叙述や二冊の記念誌、孫煥の論文では、バスケットボールがオリンピック大会の正式種目となるために、李想白が国際的に働きかけていたことを共通して記述している。さらに、孫煥のみは李想白がオリンピック大会に関する活動でForrest C. Allenと交渉したことについて、『大日本体育協会史(下巻)』(1937.3、p.1235)を引用しながら示している。

そこで、本稿では孫煥の論文で名前が挙がっていたForrest C. Allenによる二通の書簡と李想白が大日本バスケットボール協会の機関誌『籠球』第2号と第5号で記述した「国際オリムピック参加問題について」(1931)、「アレン博士と会見して」(1932)、を主な資料とする。そして、その資料を、これまで語られてきた上記の1)～5)の文献に重ねてみることで、オリンピック大会をめぐる李想白の動向について述べていく。

2. 李想白とオリンピック大会

Forrest C. Allenによる二通の書簡とは、オリンピックバスケットボール委員会の委員長宛に送られたもの(1935)¹⁾(以下、「書簡A」と省略)と、全米バスケットボールコーチ協会²⁾(以下、「NABC」と省略)の会長・会員宛に送られたもの(1935)³⁾(以下、「書簡B」と省略)である。後者にはForrest C. Allenの直筆と思われる署名がある。どちらの書簡も文字はタイプ印字され、内容は主にバスケットボールがオリンピック大会の正式種目に決定した経緯について記されている。これらの書簡の複写が、芦屋市立図書館の「松本幸雄バスケットボール文庫」に、その翻訳文とともに所蔵されている。書簡の複写を寄贈した人物は、オリンピック・ベルリン大会(1936)に日本バスケットボールチームの選手として出場した李性求⁴⁾である。彼は李想白の伝記『想白李相伯評伝』(1996)を編纂するために芦屋市立図書館を1995年8月に訪れた。その時に彼の図書館での資料検索を道盛正⁵⁾が手伝っている。そして、李性求はForrest C. Allenの書簡の複写を「松本幸雄バスケットボール文庫」に寄贈するため道盛正へ渡し、その資料の翻訳を道盛正は通訳の経験のある友人(中村俊郎)に依頼している。

NABCは1927年に創立された⁶⁾。その初代会長であったForrest C. Allenは1929年まで務めている。NABCの中には、オリンピック準備委員会が設けられ、バスケットボールがオリンピック種目になるための運動を起しており、その委員長もForrest C. Allenであった⁷⁾。また、彼はカンザス大学バスケットボールチームのヘッドコーチを務め、同体育局長と体育学科主任を兼任した人物でもあった⁸⁾。

李想白によれば、NABCにおけるオリンピック準備委員会は、1932年のオリンピック・ロサンゼルス大会でバスケットボールを正式種目として取り入れさせようとした活動を1929年頃から行っていたという⁹⁾。また、李想白はその活動に

対する大日本バスケットボール協会の動きを次のように叙述している。¹⁰⁾

ロサンジュレスに開かるべきオリムピック大会を控へて、それが米國に於いて行はれるといふ有利な條件と近來に於ける此競技の力強い發展に力を得て、可なり有力な運動が茲兩三年間米國を中心として起こされてきた。私は此噂を米國に在る知人より傳聞し、又個人的の情報を耳にする機會がある度毎に胸の躍るのを禁じえなかつたが、昨秋本協會(大日本バスケットボール協會のこと：筆者補足)が成立されたのを機會に、協會理事會の決議によつて協會として此機運の助成に努力することゝなり、一方米國に於ける此運動の中心をなす全米バスケットボール・コーチ協會のオリムピック準備委員會と提携し、他方大日本體育協會を通じて米國に於けるオリムピック委員會に問合はせを發する等、種々の斡旋の努力を盡してきた

このことから、李想白は大日本バスケットボール協會が創立された1930年以前から、バスケットボールがオリンピックの正式種目になることへ関心を抱いていたことがわかる。そして、大日本バスケットボール協會が創立したことで、日本もアメリカのオリンピック準備委員会の活動に参加する。その活動を日本で任されたのが李想白であり¹¹⁾、大日本バスケットボール協會がNABCのオリンピック準備委員会を助成することになっていた。

オリンピック・ロサンゼルス大会(1932)でバスケットボールを正式種目にさせることは、バスケットボールの歴史が浅いことなどの理由により実現しなかった¹²⁾。それでも、Forrest C. Allenらオリンピック準備委員会は、デモンストレーション種目としてバスケットボールをオリンピック・ロサンゼルス大会で行うことを企てている。

その時のことを、Forrest C. Allenは書簡Aで次のように述べている。「メキシコ、カナダ、フィリピンと日本は、もしロスアンゼルス組織委員会がバスケットボールをデモンストレーションとして行うならば、それに参加するチームをロスアンゼルスへ送るとははっきり約束しました」¹³⁾。つまり、日本では大日本バスケットボール協会を創立(1930)して間もない時期であったにもかかわらず、ロサンゼルスへ選手団を送る体制がある程度整っていたと考えられる。しかし、Forrest C. Allenらオリンピック準備委員会の努力は結局実を結ぶことなく、第10回オリンピック・ロサンゼルス大会でバスケットボール競技は、デモンストレーション種目としても行われることはなかった。

李想白は、オリンピック・ロサンゼルス大会(1932)へ出発する前にアメリカバスケットボール界の「権威者数名」¹⁴⁾に対して書簡を送っている。それは、ロサンゼルスで会合を開きたいという内容の書簡であった。その時に返事をくれたForrest C. Allenは、「私は貴君がバスケットボールをオリンピック競技種目たらしめんとする熱心を非常に喜ばしく思ふ」¹⁵⁾と記している。書簡の返事を現地で貰った李想白は、直ちにForrest C. Allenと時間を打ち合わせて、1932年8月10日¹⁶⁾にロサンゼルス市の「サンピードロ街の日本料理屋『川福』」¹⁷⁾で会合を開いている。

Forrest C. Allenは書簡A(1935)で、李想白らとの会合について次のように叙述している。¹⁸⁾

オリンピック・ロサンゼルス大会でバスケットボールを正式種目として加えるという要求に敗れたままでじっとしておれず、日本バスケットボール協会会長の副島伯爵、岸博士、李、鈴木 of 諸氏や外国の代表らは、第12回オリンピックが開催されようとする1940年の東京大会で、バスケットボールを正式種目に加えるという、はっきりとした目的を念頭に置いて、私たちと

会合を持ちました。そして、日本代表団は自発的に、ドイツを動かすように絶えず働きかけ、また、他国のオリンピック代表には第11回オリンピック・ベルリン大会にバスケットボールを正式種目として加えることを要請するよう頼みました

こうした李想白らの活動には、1940年に開催されようとしていた第12回オリンピック・東京大会において、バスケットボールを正式種目とする目的があった。そして、李想白らは献身的に国外のバスケットボール関係者と関わりを持ち、同時に日本のバスケットボールを国外に知らせようとしていたことがわかる。

Forrest C. Allenは書簡B(1935)で、バスケットボールがオリンピック大会の正式種目として認められるまでに、支援してくれた友人として最初に李想白について記している。そこで、Forrest C. Allenは李想白を国際バスケットボール連盟の事務局長と並んで下記のように紹介している。¹⁹⁾

地球の反対側からの支援がありました。それは、日本アマチュア体育協会の実行委員会と日本オリンピック委員会の委員を務める李想白である。ローマに本部がある国際バスケットボール連盟(F. I. B. B)の事務局長のR. Williams Jonesもバスケットボールを支持して、オリンピック種目の一つの種目にすることに大きな関心を持っておられた。彼と彼の組織(F. I. B. B)は、来年8月のオリンピック・ベルリン大会を実際に運営するに当たって、大きな発言力を持つでしょう。

この書簡で記されているR. Williams Jonesのことと、竹崎道雄がオリンピック・ベルリン大会(1936)でバスケットボールの国際審判員になったことを、竹崎道雄自身は次のように述べている。²⁰⁾

あのときの国際バスケットボール協会というのは、まるでジョーンズの独裁みたいなものだった。李さんとジョーンズはロサンゼルスで会っていたので親しかった。そこで審判という話がでたとき李さんが、竹崎、おまえやらないかと言って私を推薦してくれた

このように、竹崎道雄が李想白の推薦により国際審判員を務めることとなった背景には、李想白が前オリンピック大会のときにForrest C. Allen以外にも国外のバスケットボール関係者と親しくなっていたことが考えられる。

オリンピック・ベルリン大会でバスケットボールが正式種目として決定した後に、李想白は日本のバスケットボールチームがオリンピックに参加する意志をForrest C. Allenへ伝えていたことが次の書簡Bの文章から考えられる。「諸国の友人からの個人的な書簡、特にカナダ・日本からのものには、彼らの国はオリンピック大会参加の決心が固いことをほのめかしている」²¹⁾。つまり、Forrest C. Allenはオリンピック・ベルリン大会でバスケットボール競技に参加する各国の友人と書簡のやり取りを行っており、特にカナダと日本におけるオリンピック大会への参加意欲を感じていたようである。

Forrest C. Allenの書簡で李想白や日本に関する記述が多く見受けられるのは、李想白の行った活動が、恐らく他国のバスケットボール関係者よりも印象深かったからであろう。それだけに李想白の活動が、バスケットボールのオリンピック大会正式種目になることへ少なからず影響していたものと思われる。

3. お わ り に

バスケットボールをオリンピック大会の正式種目にするため、アメリカのオリンピック準備委員会の運動に李想白が関与していた。それは、彼が

オリンピック・ロサンゼルス大会へ出発する前に、Forrest C. Allenら国外のバスケットボール関係者へ書簡を送ったことから具体的には始まっている。李想白は、オリンピック準備委員会の委員長であるForrest C. Allenと出会い、その委員会の活動に参加したことで李想白の国際的な場における活動は精力的になっていったと考えられる。一方、Forrest C. Allenも李想白の献身的な活動が彼の支えになっていたようである。

李想白ら（大日本バスケットボール協会）がそうしたForrest C. Allenの活動に参加した理由は、国外のバスケットボール関係者と面識を持ち、日本のバスケットボールを国外に知らせ、第12回オリンピック・東京大会（1940）でバスケットボールを正式種目とする目的を持っていたと考えられる。

オリンピック・ロサンゼルス大会（1932）の際に、李想白がForrest C. AllenやR. Williams Jonesと親しくなっていたことで、次大会のオリンピック・ベルリン大会（1936）では、李想白がR. Williams Jonesに竹崎道雄を紹介し、その結果、竹崎道雄が国際審判員を務めることに繋がった。これは一例であるが、李想白は日本のバスケットボール界と国外のバスケットボール界とを繋げる役目を担っていたと思われる。

Franklin H. Brownが1917年の極東選手権競技大会へ日本のバスケットボールチームを出場させたように、李想白はオリンピック・ベルリン大会（1936）で日本にそれを実現させた人物として評価できようが、彼のオリンピックをめぐる「国際的な働きかけ」に関する具体的な資料は出てきていないので、これは、今後の課題としたい。

本稿は、2010年度国士舘大学体育学部附属体育研究所研究助成金を受けて行われたものである。記して感謝の意を表したい。

注及び引用文献

- 1) Forrest C. Allen, The Olympic Committee on Basketball. Mr. President, 1935, 月日不明, (書簡

- A)
- 2) NABCとはThe National Association of Basketball Coachesの略語である。NABCはアメリカにおける小学校からプロまでの各層のコーチたちによって構成され、指導的な役割を果たしている組織であり、バスケットボール競技の向上と振興を託されている。(Jerry Krause and Ralph Pim, "Coaching Basketball", Chicago: Contemporary Books, 2002, IX)
 - 3) Forrest C. Allen, Mr. President and Member's of the National Association of Basketball Coaches, 1935, 月日不明, (書簡B)
 - 4) 浅野延秋「籠球代表の行動に就て」『籠球 (伯林大会報告書)』所収、1938.4, p.2
 - 5) 道盛正は、1935年に御影師範学校を卒業し、兵庫師範付属小学校や神戸市立第一中学校の教師を務めるが、その後、東京理科大学へ進学した。1948年に大学を卒業した後に兵庫県立神戸高等学校の教師になる。以後、兵庫県教育委員会から芦屋市教育長、滝川高等学校長、神戸女子大学へ勤務した。また、兵庫県バスケットボール協会の三代目理事長、同協会副会長を務めた。(兵庫県バスケットボール協会『先賢の登音 兵庫県バスケットボール協会50年史』1985.6, p.239)
 - 6) Jerry Krause and Ralph Pim, Coaching Basketball, Chicago: Contemporary Books, 2002, IX
 - 7) 李想白「国際オリンピック参加問題について」『籠球 (第2号)』所収、1931.10, pp.28-29
 - 8) フォレスト・クレア・アレン (1885~1974) はミズーリ州ジェイムズポートで生まれ、1905年にミズーリ州インディペンデンス高校を出た後、1909年にカンザス大学を卒業する。アレンは著名なバスケットボールの指導者であり、カンザス大学ではバスケットボールのヘッドコーチを39年間務めた。(李想白「国際オリンピック参加問題について」『籠球 (第2号)』所収、1931.10, pp.28-29、
 - 李想白「アレン博士と会見して」『籠球 (第5号)』1932.11, p.22、水谷豊他訳『バスケットボール・コーチング・バイブル』大修館書店、1997.4, p.410 (Jerry Krause, (ed.) "Coaching BASKETBALL", Masters Press, 1994.)
 - 9) 李想白「国際オリンピック参加問題について」『籠球 (第2号)』所収、1931.10, p.28
 - 10) 同上
 - 11) 李想白「アレン博士と会見して」『籠球 (第5号)』所収、1932.11, p.20
 - 12) 李想白「国際オリンピック参加問題について」『籠球 (第2号)』所収、1931.10, p.28
 - 13) Forrest C. Allen, The Olympic Committee on Basketball. Mr. President, 1935, 月日不明, p.8, (書簡A)
 - 14) 李想白「アレン博士と会見して」『籠球 (第5号)』所収、1932.11, p.22
 - 15) 同上
 - 16) オリンピック・ロサンゼルス大会は、1932年7月30日~8月14日まで開催されていたため、オリンピック大会の開催中に、李想白とアレンは会合を開いていたことになる。(大日本体育協会『大日本体育協会史 (上巻)』1936.12, p.712)
 - 17) 李想白「アレン博士と会見して」『籠球 (第5号)』所収、1932.11, p.22
 - 18) Forrest C. Allen, The Olympic Committee on Basketball. Mr. President, 1935, 月日不明, pp.9-10 (書簡A)
 - 19) Forrest C. Allen, Mr. President and Member's of the National Association of Basketball Coaches, 1935, 月日不明, p.2 (書簡B)
 - 20) 日本バスケットボール協会『バスケットボールの歩み』1981.3, pp.105-106
 - 21) Forrest C. Allen, Mr. President and Member's of the National Association of Basketball Coaches, 1935, 月日不明, p.2 (書簡B)